弊社店舗の連続放火事件報道に関して

この度のドン・キホーテ浦和花月店の放火事件では、弊社従業員３名の尊い生命が奪われる最悪の事態に至りました。

これから輝かしい未来が開かれるはずであった彼らの無念、そしてご遺族、関係者の皆様の悲しみと怒りを思えば、まさに慙愧の念にたえません。

亡くなられた方々は、いずれもお客様の避難誘導後、さらなる安全確認のため店に再突入し、忌わしい惨劇の犠牲になった模様です。筆舌に尽くしがたい痛恨の極みであります。

弊社は「お客様第一主義」の企業理念の下、防災に関しても、消防局の指導を仰ぎ作成した厳格なマニュアルに基き、お客様の安全確保には常に万全を期しております。

事件の約１ヵ月前にあたる 11 月 16 日には、この浦和花月店でも消防訓練を実施しており、今回も初期消火に対する行動とお客様の避難誘導に関しては、ほぼ完璧な対応をさせていただいたと認識しています。

事件発生当時、浦和花月店にいたお客様は 25 名前後だったとの報道がなされておりますが、その後の調べでその数が 100 名以上にのぼったことが判明しました。

混乱のきわみである猛火と黒煙の火災現場の中で、冷静沈着に行動し、多数のお客様を安全確実に避難誘導した弊社従業員たちを、私は心から誇りに思っています。

その一方、結果的に従業員の避難、安全確保、確認という面に思いと配慮が至らなかった点を猛省すると共に、二度とこのような事態を招来せぬよう、社運をかけさらに徹底して防災に取組んでいく所存です。

究極のお客様第一主義を貫徹して亡くなった３名は明らかな殉職です。言うまでもなく、その全責任は経営者である私にあります。従っていかなるご批判、ご叱責、非難も甘んじてお受け致します。

しかしながら、この度の各社メディアによる事件報道には、事実無根の言及も含め、その歪曲された内容はいささか目に余るものがあり、残念でなりません。

ドン・キホーテという店、企業を愛し、最後まで誇りと責任を持って仕事を全うし、殉職した彼らの名誉にかけても、この時期に不謹慎と誹りを受ける覚悟の上で、敢えて反論させていただきます。

まずこの度の火災は、あくまで陰湿かつ凶悪な放火によってもたらされた殺人事件であり、弊社並びに殉職者はその直接的被害者であり、犠牲者であります。

にもかかわらず、そうした事件の本質への言及が殆どなされず、あたかも弊社の圧縮陳列やジャングル売場が火災の遠因であるかのような報道は甚だ心外です。

加えて、過去の店舗出店に対する住民反対運動とか、本件とは全く関係のない公取委立入調査の件などを蒸し返して、なぜ今、弊社がこれほどまでにあげつらわれ、バッシングの嵐に晒されなければならないのでしょうか。

これでは、誰一人逃げることなく命がけでお客様の安全確保に徹した、浦和花月店の従業員たちの気持ちは報われません。

さらにそうした人民裁判のごとき報道は、殉職者を鞭打つ行為にも等しく、社員一同、それこそ胸のつぶれるような、やりきれない気持ちで一杯です。

一方、多くのメディアが指摘するように、仮に圧縮陳列や迷路型レイアウトが火災避難の障害になるのなら、今回の浦和花月店のような猛火では、お客様の中にも少なからぬ犠牲者が出たはずです。

然るにお客様は従業員誘導の下、火災のごく初期時点で従業員用出入り口及び店舗出入り口から、全員無事に脱出していただいております。

逆に店内を熟知している従業員が、前述したように避難誘導完了後に再突入し事故に遭っているという一点をもってしても、弊社独自の圧縮陳列や通路が何ら避難障害になるものではないということが明白であります。

ちなみに浦和花月店の火災発生は 12 月 13 日の 20 時 17 分。従業員の発見時刻が 20 時 18 分。消防署通報が 20 時 19 分です。

初期消火活動には４名の男性従業員が向かいました。全員消火器を携え、マニュアル通り四方から取り囲んで鎮火に当たったようですが、あまりに火の勢いが強く、黒煙が充満し始めたため、消火活動を断念しお客様の避難誘導に専

念したという経緯があります。

既報の通り、浦和花月店の放火は、火の気のない寝具売場でなされました。第一発見者の従業員によれば、商品である絨毯から身の丈ほどの炎が一瞬にして舞い上がったとのことです。

すなわち同店の放火に関しては、発火性と引火力のきわめて強いものが使用されたと推測されます。絨毯のような材質のものが、瞬時に燃え上がるはずがないからです。

もちろん弊社の店舗では、前述の通り常に火災を想定し、その対応策を講じております。

しかしこのように悪質で凶暴な放火を前提とした売場作りは不可能です。これは弊社のみならず、他のいかなる小売業とて同様でしょう。少なくとも圧縮陳列がいいとか悪いといった次元の話でないことだけは、明確にご理解いただけると思います。

いずれにせよ、一刻も早く、憎むべき犯人の特定、逮捕を願うのみであります。それこそが、何にも勝る最大の防災であることは言うまでもありません。

最後になりましたが、この度の件では、一時株価が急落するなど株主の皆様にも多大なご迷惑、ご心配をおかけし、心からお詫び申し上げます。

一部の報道機関により、私の辞任が取り沙汰されているようですが、このような事態を収拾し、株主の皆様の不安を払拭して信頼を取り戻すまでは、全責任をもって自らの職務を全うする決意です。

それを前提に然るべき時期を見計らい、弊社にとってより建設的な方法で自らの責任をとり、けじめをつける所存であります。

平成 16 年 12 月 17 日

株式会社ドン・キホーテ　代表取締役社長

安田 隆夫